

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況（内規第 11 条 活動報告）

団体名	和	国際純粋及応用生物物理学連合
	英	International Union for Pure & Applied Biophysics (略称 IUPAB)
	団体 HP (URL)	http://iupab.org/
国際学術団体における最近のトピック (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)	<ul style="list-style-type: none"> ● IUPAB 2024 年大会を、日本生物物理学会の第 62 回年会との合同で IUPAB2024Kyoto 大会として開催した。実施期間は 2024 年 6 月 24 日から 28 日まで 5 日間、会場は京都国際会館。実行委員長は野地博行氏（東京大学、現 IUPAB 分科会・生物物理学分科会議長）。52 カ国より 1918 名が参加した。口頭発表数 216 件、ポスター発表数 1135 件、展示 38 件。後述する IUPAB 分科会が設定した戦略「国内外の若手研究者を日本の生物物理学コミュニティに定着させる」ため、生物物理若手の会主導の前夜祭 IUPAB eve fest (2024 年 6 月 23 日開催) および、日本の生物物理学拠点における Hands-on training course (全 6 コース) を大会と連動して実施した。 ● IUPAB2024Kyoto 大会の同時期に IUPAB の新理事メンバーの選挙があり、日本学術会議 IUPAB 分科会・生物物理学分科会連携会員の西坂崇之氏（学習院大学）が選出された（2 期目）。 	
当該国際学術団体が対応する分野において学術の進歩に貢献した事例	<p>IUPAB は、生物物理学分野における世界規模での学術交流の唯一の場として大きく当該学問領域の発展に貢献している。以下、学術交流としての主な実績および表彰事業をリストする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● IUPAB Biophysics Congress の開催による世界規模での学術交流（今年は IUPAB2024Kyoto 大会） ● IUPAB Focused meeting による専門領域における国際会議開催（2022 年度 The biophysics of neurotransmitter-gated ion channels: from structure to drug discovery”をカナダオタワで開催） ● 学術誌 Biophysical reviews の発行 (http://iupab.org/publications/biophysical-reviews/) ● Avanti-IUPAB Prize による生物物理研究者の表彰 ● IUPAB Young Investigator Prize による若手研究者の表彰 	
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等	<p>IUPAB 大会では、毎回世界のライフサイエンスの発展に資する研究領域を取り上げ、基調講演・シンポジウムなどを開催している。IUPAB2024Kyoto 大会では、2024 年度ノーベル賞を受賞した D. Baker 氏が基調講演を行なった。本年度受賞分野である「タンパク質の設計学・構造予測」のみならず、これまでもノーベル化学賞の受賞分野となった「超解像顕微鏡」「電子顕微鏡単粒子解析」「膜受容体蛋白質」などは IUPAB および生物物理学分野で取り組んできた研究分野である。IUPAB2024Kyoto 大会では、以上の分野に加えて「数理生物学」「大規模バイオイメージ</p>	

	<p>ング」「メカノバイオ」「合成生物学」「理論生物学」などを取り上げている。</p>
<p>日本人役員によるイニシアティブ事項や日本の参加によって進展や成果があった事例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2024 年度は、日本は京都で IUPAB2024Kyoto 大会を成功させた。大会長は、IUPAB・生物物理分科会の議長であり、IUPAB 理事を 2 期務めた野地博行氏（東大）である。本大会では、テーマを「Rocking out Biophysics!」と定義し、日本の生物物理学コミュニティが有するオープンな雰囲気とともに独創性を目指す研究文化を世界に発信した。 ● 2024 年に更新された IUPAB 理事に西坂崇之氏（IUPAB・生物物理分科会連携会員）が再選し、引き続き IUPAB の運営に大きく関わる予定である。
<p>当該団体に加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民にとってのメリットや変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 上述の IUPAB2024Kyoto 大会は、日本学術会議 IUPAB 分科会メンバーを中心とした 10 年以上にわたるプロジェクトである。その目的は、「世界の優秀な若手研究者を日本に惹きつける」ことである。これによって日本における生物物理学のコミュニティの規模および質の維持・発展を目指している。この目的達成のために IUPAB2024Kyoto のテーマを "Rocking out Biophysics!" とし、日本生物物理学コミュニティが持つオープンで自由闊達雰囲気な研究文化を世界に発信した。また、若手主導の IUPAB eve fest の開催、日本の生物物理研究拠点での実験体験コース 'Hands-on training course' を 6 コース実施した。これらの施策の効果は長期的視点で見ると必要があるが、IUPAB2024Kyoto 参加者に対するアンケート調査では、極めて高い評価を得た。このように、IUPAB・生物物理分科会は IUPAB 大会を自ら企画・実施することで、日本の生物物理学コミュニティの研究成果および文化の情報発信を行い、若手研究者との交流を深めた。これは、長期的に本分野の発展の基礎となり、その成果を通じて日本社会に貢献するものと考えている。
<p>その他（若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● Task Force On Education & Capacity Building : 世界における生物物理学の振興の補助（当該地域におけるサマースクールや、現地学会のサポート）を行なっている。また、若手研究者のための表彰制度や、研究交流の場を多数提供している (http://iupab.org/taskforces/taskforce-in-education-and-capacity-building/)。以下に、IUPAB 本体および本タスクフォースが実施している具体的な活動例を示す。 ● IUPAB2024Kyoto 大会ではそれまでの大会と同様に、博士課程の学生および博士号取得後 4 年以内のポスドクを対象として、IUPAB Biophysics congress に参加するための旅費の一部を奨学金として提供した（対象者約 50 名）。 ● IUPAB2024Kyoto 大会ではそれまでの大会と同様に、Avanti Polar Lipids-IUPAB Medal and Prize が設置されている。2020 年度は、IUPAB 評議会によって審査が行われ、優勝者には 3,000 米ドルの名誉とメダルが授与された。

	<ul style="list-style-type: none"> ● IUPAB2024Kyoto 大会ではそれまでの大会と同様に、The Young Investigator Award が表彰され、今年度は日本の加藤英明氏（東京大学）が受賞した (https://www.c-linkage.co.jp/iupab2024-bsj-kyoto/plenary_lecture.html).
--	--

2 今後の予定について（内規第 11 条 活動報告）

総会、理事会の日本開催の予定（招致等の予定も含む）	特になし（既に IUPAB2024Kyoto 大会を開催済み）。
日本人の役員立候補等の予定	特になし（既に新理事として西坂氏が選出済み）。
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動き	日本生物物理学会（BSJ）の有志がアジア生物物理連合（ABA）と共同し、IUPAB と協力する形でマレーシアにおいて生物物理学に関する国際学会を企画している。2025 年 7 月開催の IUPAC のサテライトとして位置付ける。

3 国際学術団体会議開催状況（内規第 11 条 活動報告）

総会・理事会・各種委員会等の状況 （過去 5 年間及び今後予定されているもの）	総会開催状況	2017 年（開催地：エジンバラ、英国） 2021 年（開催地：フォス・ド・イアス、ブラジル→オンライン開催へ変更） 2024 年（開催地：オンライン）
	理事会・役員会等開催状況	2017 年（開催地：エジンバラ、英国） 2021 年（開催地：フォス・ド・イグアス、ブラジル） 2024 年（開催地：京都、日本）
	各種委員会開催状況	出版委員会・教育タスクフォース等の委員会も、IUPAB Biophysics Congress と連動して開催されている。それ以外は適宜メール会議を行なっている。 2017 年（開催地：エジンバラ、英国） 2021 年（開催地：フォス・ド・イグアス、ブラジル） 2024 年（開催地：京都、日本）
	研究集会・会議等開催状況	年（開催地： ）、 年（開催地： ）、 年（開催地： ）、 年（開催地： ）、 年（開催地： ）、 年（開催地： ）、 年（開催地： ）、 年（開催地： ）、 年（開催地： ）、 年（開催地： ）
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定	IUPAB Biophysics Congress と連動した IUPAB 総会には理事 1 名および、日本学術会議 IUPAB 分科会メンバーが出席。IUPAB2024Kyoto の参加総数 1918 名の約 65%が日本からの出席者（ただし国籍は区別していない）。	

	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
国際学術団体における日本人の役員等への就任状況（過去5年）	理事	2024～2027	西坂崇之	（26期）連携
	理事	2021～2024	西坂崇之	（25期）特任連携
	理事	2017～2021	野地博行	（24期）連携
		～		（ 期）会員・連携
		～		（ 期）会員・連携
		～		（ 期）会員・連携
		～		（ 期）会員・連携
出版物	1 定期的（年4回） 主な出版物名 Biophysical Reviews (Springer) (https://link.springer.com/journal/12551)			
	2 不定期（年2-4回） 主な出版物名出版物名 IUPAB news letter			
	不定期（年1-3回） Encyclopedia of Biophysical Methods			
活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 (http://iupab.org/)				

4 国際学術団体に関する基礎的事項（内規第3条、4条、5条）

国内委員会 (内規4条第3号)	委員会名	基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会および基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 IUPAB 分科会
	委員長名	野地博行（生物物理学分科会）・野地博行（IUPAB 分科会）
	当期の活動状況	<p>（開催日時 主な審議事項等）</p> <p>令和6年5月9日 第26期第1回基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会・IUPAB分科会両分科会合同会議を開催。 主な審議事項： ● 議長・副議長・幹事の選出 ● IUPAB2024Kyoto大会の準備状況 ● 公開シンポジウムについて ● 提言の発出について</p> <p>令和7年1月9日 第26期第2回合同会議開催予定 同日、学術会議公開シンポジウム「人工知能で生命を追求する データ駆動による生命の理解 -細胞から人の動きまで-」を開催予定（バイオインフォマティクス分科会と合同開催） https://sites.google.com/view/nihon-gakujutsu-kaigi-ai/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0</p>
内規第3 (国際学術団体の要件関係)	<p>国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1. 該当する <input type="checkbox"/> 2. 該当しない</p> <p>※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載（http://www. ）</p>	
	<p>各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている（主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1. 該当する <input type="checkbox"/> 2. 該当しない</p> <p>※根拠となる資料の添付又は URL を記載（http://www. ）</p>	
	<p>下記の事項（ア～エ）のいずれか一つに該当するか（該当するものに○印）</p> <p>ア 個々の学術の専門分野における統一のかつ世界的な組織を有するもの</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一のかつ世界的な組織を有するもの</p> <p>ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの</p> <p>エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</p>	

10 ヲ国を超える各国代表会員が加入している	
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 該当する <input type="checkbox"/> 2. 該当しない	
加入国数及び 主要な各国代 表会員を 10 記載	(61 ヲ国)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各国代表会員名／国名 ・ アメリカ国立科学アカデミー、アメリカ生物物理学会/アメリカ ・ イギリス生物物理学会／イギリス ・ イタリア学術会議／イタリア ・ インド国立科学アカデミー／インド ・ オーストラリア科学アカデミー／オーストラリア ・ カナダ学術会議／カナダ ・ スペイン国立科学技術委員会／スペイン ・ スウェーデン国立分子生物学委員会／スウェーデン ・ ドイツ生物物理学会／ドイツ ・ ブラジル生物物理学会／ブラジル ・ フランス科学アカデミー生物物理委員会／フランス

(参考)

国内関係学協会（主要 5 団体）

日本生物物理学会、日本物理学会(特に領域12：ソフトマター物理・化学物理・生物物理)、
日本生理学会、日本バイオイメージング学会、日本バイオインフォマティクス学会